

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の施設基準に係る届出書添付書類

1 届出種別（該当するいずれか1つを○で囲むこと）		1：新規届出 2：再度の届出
実績期間 開始年月（和暦で記載すること）		年 月
終了年月（和暦で記載すること）		年 月
届出する項目（該当するいずれか1つを○で囲むこと）		1：子宮体がん 2：子宮頸がん
2 標榜診療科（該当するいずれか1つを○で囲むこと）		1：産婦人科 2：婦人科
3 産婦人科又は婦人科について合わせて5年以上の経験を有し、下記の手術を実施した経験を有する常勤医師の氏名等		
常勤医師 1	氏名	
	診療科名	科
	勤務時間	時間
	産婦人科又は婦人科の経験年数	年
	区分番号「K879」の手術の経験症例数（20例以上）	例
	区分番号「K877-2」（内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の経験症例数（20例以上）	例
	区分番号「K879-2」（子宮体がんに限る。内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の術者としての経験症例数（術者として5例以上）	例
	区分番号「K879-2」（子宮頸がんに限る。内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の術者としての経験症例数（術者として3例以上）	例
常勤医師 2	氏名	
	診療科名	科
	勤務時間	時間
	産婦人科又は婦人科の経験年数	年
	区分番号「K879」の手術の経験症例数（20例以上）	例
	区分番号「K877-2」（内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の経験症例数（20例以上）	例
	区分番号「K879-2」（子宮体がんに限る。内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の術者としての経験症例数（術者として5例以上）	例
	区分番号「K879-2」（子宮頸がんに限る。内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の術者としての経験症例数（術者として3例以上）	例

常勤医師 3	氏名	
	診療科名	科
	勤務時間	時間
	産婦人科又は婦人科の経験年数	年
	区分番号「K879」の手術の経験症例数（20例以上）	例
	区分番号「K877-2」（内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の経験症例数（20例以上）	例
	区分番号「K879-2」（子宮体がんに限る。内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の術者としての経験症例数（術者として5例以上）	例
	区分番号「K879-2」（子宮頸がんに限る。内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の術者としての経験症例数（術者として3例以上）	例
常勤医師 4	氏名	
	診療科名	科
	勤務時間	時間
	産婦人科又は婦人科の経験年数	年
	区分番号「K879」の手術の経験症例数（20例以上）	例
	区分番号「K877-2」（内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の経験症例数（20例以上）	例
	区分番号「K879-2」（子宮体がんに限る。内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の術者としての経験症例数（術者として5例以上）	例
	区分番号「K879-2」（子宮頸がんに限る。内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）の手術の術者としての経験症例数（術者として3例以上）	例
4 当該手術を担当する診療科の常勤医師の氏名等		
常勤医師 1	氏名	
	診療科名	科
	勤務時間	時間
常勤医師 2	氏名	
	診療科名	科
	勤務時間	時間
常勤医師 3	氏名	
	診療科名	科
	勤務時間	時間
5 常勤の麻酔科標榜医及び病理医の氏名		
常勤の麻酔科標榜医の氏名		
病理医の氏名		
6 当該保険医療機関における区分番号「K879」又は「K879-2」（内視鏡手術用支援機器を用いる場合を含む。）の年間実施症例数		例
7 緊急手術が可能な体制		有 ・ 無

[記載上の注意]

- 1 「1」は、特掲診療料施設基準通知第2の4の(3)に定めるところによるものであること。
- 2 「3」及び「6」については、当該手術症例一覧(実施年月日、手術名、患者の性別、年齢、主病名)を別添2の様式52により添付すること。
- 3 「3」及び「4」の常勤医師の勤務時間について、就業規則等に定める週あたりの所定労働時間(休憩時間を除く労働時間)を記入すること。